

LikePotの「視点」と「支援」

～支援プログラムの公表～

児童福祉法の改正により、令和6年4月1日から児童発達支援、放課後等デイサービスにおける支援プログラムの公表が義務化されました。

事業所が提供する支援プログラムに5領域が盛り込まれているかを公表するものです。

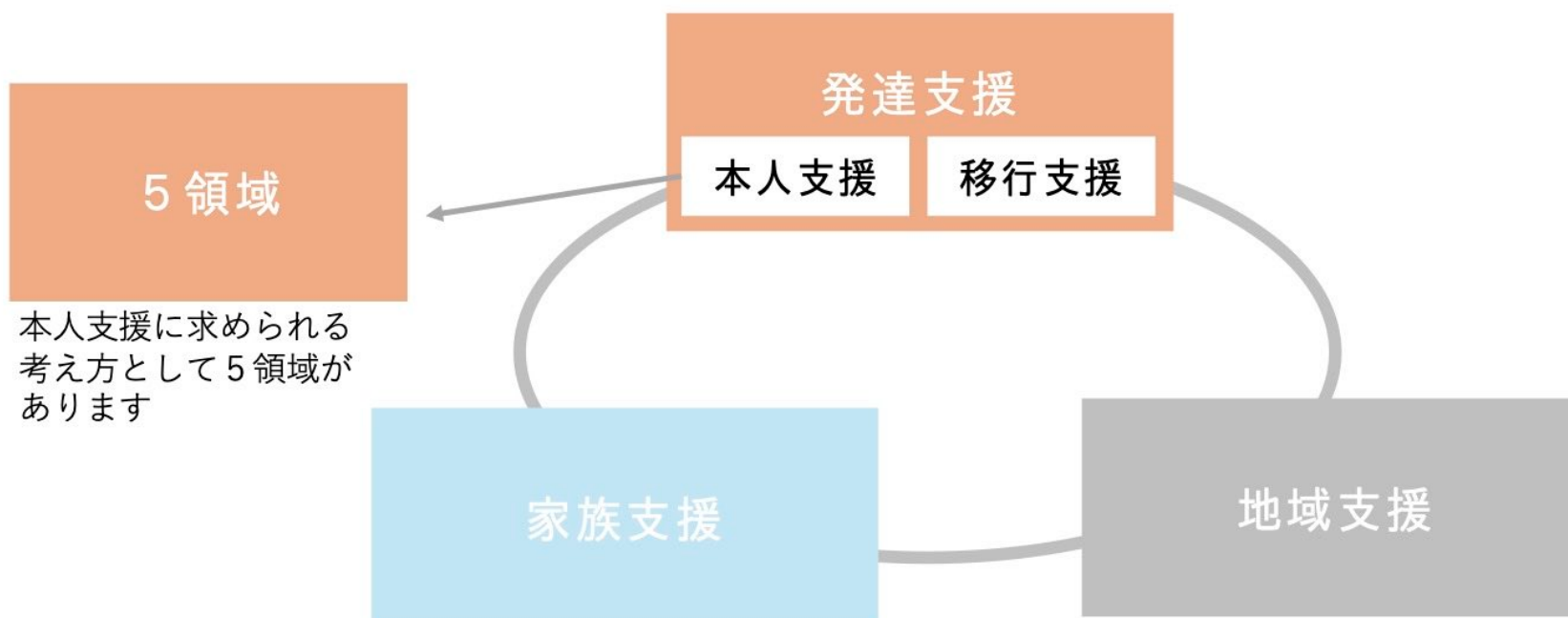
LikePotでは、開設当初より次のとおり支援プログラムに5領域が盛り込まれていることを公表いたしますので、ご参照ください。

もくじ

- ①LikePotの3つの役割
- ②役割ごとの具体的な視点
- ③LikePotで提供する具体的な支援
- ④支援プログラム参考様式

LikePotの3つの役割

私たちが求められる支援の役割として「発達支援」「家族支援」「地域支援」が求められています。そして本人支援には次のページから説明する支援の5領域を視点とし、支援を行います



本人支援に対する視点と5領域とは？

「児童発達支援、放課後等デイサービスガイドライン」には、保育の「5領域」が示されており、私たちはこの5領域全ての視点をもとに支援を行います

健康・生活

- ・健康状態の維持・改善、
- ・生活リズムや生活習慣の形成
- ・基本的生活スキルの獲得

運動・感覚

- ・姿勢と運動、動作の向上
- ・姿勢と運動、動産の補助的手段の活用
- ・保有する感覚の統合的な活用

認知・行動

- ・認知の発達と行動の習得
- ・空間、時間、数等の概念形成の習得
- ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

言語・コミュニケーション

- ・言語の形成と活用
- ・言語の受容及び表出
- ・コミュニケーションの基礎能力向上

人間関係・社会性

- ・他者との関わり（人間関係）の形成
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加

本人支援に対する視点

個々の障害特性や発達段階に応じて、LikePotでは保育5領域をふまえた「運動学習型放課後等デイサービス」として「運動プログラム」「学習プログラム」「社会プログラム」の3つを軸に発達支援を行っております。



運動プログラムの視点

運動プログラム

運動プログラムではサーキットメニューや運動遊びを通して、子どもの発達の土台である五感、前庭覚、固定受容覚を育む、整える支援（感覚統合）を行います。
姿勢や集中力など多くの課題はここが基本です



学習プログラムの視点

学習プログラム

学習プログラムではまずは環境を大事にしています。本人がしっかり取り組めるようにスケジュールを『見える化』や場所を『個室化』するなど構造化の整えます。また宿題だけでなく個別のプリントや自立課題など個々に応じたプログラムを準備しております。



社会プログラムの視点

社会プログラム

社会プログラムではLST（ライフスキルトレーニングやSST（ソーシャルスキルズトレーニング）をベースにお買い物や調理の練習など事業所内外の活動を通して生活上に必要なスキルを支援します。また様々な行事や家族参加型のイベントなども行っております。



移行支援に対する視点

【視点】

インクルージョン（地域社会への参加・包括）の考えのもと、障害の有無にかかわらず、子どもたちが住み慣れた地域やライフステージに応じた移行の準備、併行利用先や学校などでの生活や支援が充実できるようサポートいたします。

【具体的な支援の内容】

- ・ 移行、併用先との支援内容等の共有
- ・ 子どもの情報、家族の意向等についての移行、併用先への伝達
- ・ 併行通園、併行利用時の利用日数や時間等の調整
- ・ 移行先の受け入れ体制づくりの協力

家族支援に対する視点

【視点】

障害のある子どもを育てる家族に対して、障害の特性に配慮し、子どもの「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に、「家族支援」を行います。

【具体的な支援】

- ・ 子どもの発達上の課題についての気づきの共有と支援
- ・ 相談支援専門員との知己的な支援会議や支援計画の調整
- ・ 関係者、関係機関の連携や橋渡し
- ・ ファミラボなどによる家族支援プログラムの実施
- ・ 兄弟姉妹等の相談や支援

地域支援に関する視点

【視点】

障害のある子どもの地域社会への参加・インクルージョンを推進するため、保育所や学校など関係機関との連携を行い、地域の子育て環境や支援体制の構築を進めます。

【具体的な支援】

- ・ 保育所や学校など関係機関との連携
- ・ 医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携
- ・ 自立支援協議会などへの参加
- ・ WarmBlueKurumeなど共催やお母さん業界新聞など各団体との連携による理解促進のための活動の実施